

□逆流性食道炎に対するボノプラザン（タケキャブ）の臨床効果についての調査

研究課題名	逆流性食道炎に対するボノプラザン（タケキャブ）の臨床効果についての調査
研究期間	2018年8月～200症例まで
研究対象	Fスケール問診票と胃内視鏡検査を行い逆流性食道炎と診断された患者200症例が対象。
研究目的・方法	現在の逆流性食道炎の治療はプロトンポンプ阻害剤（PPI）が第一選択となっている。特に粘膜障害のある逆流性食道炎（RE）は有効率も高い。しかし20～30%に効果不十分な症例が存在する。また粘膜障害のない逆流性食道炎（NERD）はその有効率は30～40%と低い。ボノプラザンは従来のPPIの作用と異なり、カリウムと競合する形でプロトンポンプを強力に阻害する。このため効果不十分であった患者にも効果が期待できる。今回計200症例の逆流性食道炎患者に対し、ボノプラザンを24週投与し、その効果を問診表による判定で行う。従来のPPIの成績より良好な結果が期待できる。
研究に用いる試料・情報	投薬受診日に全例Fスケール問診票と治療に対する満足度を調査している。タケキャブ投与により導入療法終了4～8週後と維持期24週目の時点でのFスケールの改善度、満足度の改善度を調査する。
研究責任者・担当者	消化器内科部長 後藤 康彦